

「国体目標」力強く

八学大女子ラグビー部

市長訪ね創部報告

八戸

今春発足した八戸学院大(八戸市)女子ラグビー部の部長、監督らがこのほど、市庁に小林眞市長を訪ね、創部を報告した。部長たちは目標として「強くなつて、国体を目指す」と力強く語った。

各選手(いずれも1年)、工藤祐太郎監督、山下祐史ヘッドコーチ(HC)。選手5人中3人は競技経験者、2人は陸上の高校全国大会出場歴を持ち、脚を生かした速攻が身上了。女子競技の主流は7人制だが現時点では部員が足りないため、練習試合などでは県内の高校女子部員らと合同チームを組んでいるという。選手たちは市長に「粘り

チームの愛称にちなみ、サメを表すポーズで写真に納まる小林市長(右から3人目)と女子ラグビー部員



強く戦つ」「自分の役目を広く伝えたい」と目を輝か果たす」などと抱負。工藤一せた。(若松清巳)

監督が「目標はまず国体」、山下HCが「五輪出場の素質がある選手ばかり」と語ると、市長は「市を挙げて応援する」と答えた。

チームの愛称は「レッドシャークス」。高校時代、女子部員は自分だけだったという田端主将は取材に「女子と練習できるのはうれしい。強くなつて国体を目指し、女子ラグビーの魅力